

各 位

会社名 ミニストップ株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 阿部 信行  
 (コード番号 9946 東証第一部)  
 問合せ先 専務取締役 井上 雅之  
 TEL (043) 212-6472  
 当社の親会社 イオン株式会社  
 代表者名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
 (コード番号 8267 東証第一部)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

2009年4月6日に公表した2010年2月期第2四半期累計期間(2009年3月1日~2009年8月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 2010年2月期第2四半期累計期間業績予想の修正(2009年3月1日~2009年8月31日)  
 (連結) (単位:百万円)

	営業収入	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想(A)	57,000	4,400	4,700	2,000	69円16銭
今回予想(B)	55,000	2,100	2,500	900	31円12銭
増減額(B-A)	2,000	2,300	2,200	1,100	
増減率	3.5%	52.3%	46.8%	55.0%	
(参考)前中間期業績	64,068	4,643	5,099	2,432	84円13銭

(単体)

	営業収入	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想(A)	33,000	3,950	4,350	1,800	62円24銭
今回予想(B)	31,000	1,700	2,300	900	31円12銭
増減額(B-A)	2,000	2,250	2,050	900	
増減率	6.1%	57.0%	47.1%	50.0%	
(参考)前中間期業績	33,925	4,548	5,013	2,380	82円33銭

## 2. 修正理由

(単体)

第2四半期累計期間においては、昨年来の経済環境の悪化に伴う個人消費の低迷やタスポ効果一巡による売上の減少等当社を取り巻く経営環境は一層厳しさが増しております。このような環境の中、店舗のスクラップアンドビルドや第5次POS導入、ファストフード部門のコーヒーマシン導入など、当初の活動方針に基づいた施策に取り組んでおりますが、7、8月の日照不足、梅雨明けの遅れ等天候不順の影響で、店内加工ファストフード部門におけるコールドデザートや飲料・アイスクリーム等各部門における夏物商材の販売数が予定を大きく下回る見込みです。また、主力商品である米飯デリカ部門においては、お客さまの節約志向への対応が遅れたこともあり、「おにぎり100円セール」などセール期間中は販売を伸ばしたものの、それ以外の期間では販売数を伸ばすことができませんでした。その結果、既存店1店1日当りの売上高前年同期比は予想に対し1.8p t下回り97.5%、店舗稼働日数の未達もあって、全店売上高は予想に対し30億円下回り1,550億円となる見通しです。売上総利益率は、利益率の高い主力商品の低迷により予想に対し0.8p t下回り、30.0%となる見通しです。

また、販売費および一般管理費においては、売上の底上げを図るため、品揃え支援費や販促費について計画を上回る施策を実施いたしました。直営店舗削減による人件費削減や旅費交通費など経費削減に努力してまいりましたが、加盟店の売上確保をバックアップする費用を積極的に投入したため、販売費及び一般管理費は当初計画を8億円上回る見込みです。

上記の結果、営業収入は310億円(予想比 20億円)、営業利益は17億円(同 22億50百万円)、経常利益は23億円(同 20億50百万円)、四半期純利益は9億円(同 9億円)の見込みです。

(連結)

韓国ミニストップ㈱は予定通りに業績が推移しておりますが、エムエス九州㈱は単体同様厳しい経営環境の中、計画を下回る見込みです。第2四半期累計期間における連結業績は、単体の業績修正が主要因となり、営業収入は550億円(予想比 20億円)、営業利益は21億円(同 23億円)、経常利益は25億円(同 22億円)、四半期純利益は9億円(同 11億円)の見込みです。

尚、通期の業績見通しにつきましては、10月6日に予定しております第2四半期累計期間決算発表時にお知らせいたします。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上